



外国語の学習評価について考える①～評価規準を作成する～

新学習指導要領では「指導と評価の一体化」がこれまで以上に重視され、指導方法の改善が求められています。小学校外国語においては、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」の三つの柱で示された資質・能力の育成に向けて、五つの領域別目標「聞くこと」「読むこと」「話すこと〔発表〕」「話すこと〔やり取り〕」「書くこと」の達成を目指した授業実践を図る必要があります。

本通信第1号では、単元計画を立てる際には、この五つの領域別目標から本単元でねらう目標を焦点化することをお伝えしました。今回は、『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料「小学校外国語・外国語活動」の事例を基に、単元の目標に照らした評価規準の作成について取り上げたいと思います。

「話すこと〔発表〕」における評価事例

※参考資料 第3編 事例2 (p58)より抜粋

単元：「She can run fast. He can sing well.」(「We Can! 1」文部科学省)

目標：相手に自分や第三者のことをよく知ってもらうために、できることやできないことなどについて、聞いたり自分の考えや気持ちを含めて話したりすることができる。また、文字には音があることに気付くとともに、アルファベットの大文字・小文字を活字体で書くことができる。

単元の評価規準：

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと〔発表〕	<p><知識> I/He/She can～. Can you ～? など、自分や相手、第三者ができることやできないことを表す表現やその尋ね方、答え方について理解している。</p> <p><技能> I/He/She can～. Can you ～? など、自分や相手、第三者ができることやできないことを表す表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを含めて話す技能を身に付けている。</p>	<p>相手に自分や第三者のことをよく知ってもらうために、自分や第三者ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話している。</p>	<p>相手に自分や第三者のことをよく知ってもらうために、自分や第三者ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話そうとしている。</p>


(資料)：『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料「小学校外国語・外国語活動」(文部科学省 国立教育政策研究所)

評価規準は、単元の目標に基づき観点別に設定することになります。この事例では、目標の下線部(できることやできないことなどについて、聞いたり自分の考えや気持ちを含めて話したりすることができる)に基づき、「話すこと〔発表〕」に焦点化して評価規準が設定されていることが分かります。もちろん、評価規準を「話すこと〔発表〕」に焦点化したからと言って、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」についての指導は行わないということではありません。各領域の目標に向けた指導は行いつつ、本単元で「記録に残す評価」については「話すこと〔発表〕」に絞って行うという考え方です。

また、評価規準を設定する際には、目標に照らして観点別の評価を行ううえで必要な要素を盛り込むことが必要です。ちなみに本単元の評価規準の記載内容は次のようになっています。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
話すこと〔発表〕	<p><知識> 【言語材料】 I/He/She can～. Can you ～? など、自分や相手、第三者ができることやできないことを表す表現やその尋ね方、答え方について理解している。</p> <p><技能> 【言語材料】 I/He/She can～. Can you ～? など、自分や相手、第三者ができることやできないことを表す表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを含めて話す技能を身に付けている。 【内容】</p>	<p>【目的等】 相手に自分や第三者のことをよく知ってもらうために、自分や第三者ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話している。 【内容】 【事柄・話題】</p>	<p>【目的等】 相手に自分や第三者のことをよく知ってもらうために、自分や第三者ができることやできないことなどについて、自分の考えや気持ちなどを含めて話そうとしている。 【内容】 【事柄・話題】</p>

各観点の評価を行ううえで必要な要素を確認しましょう！
3観点の共通点や相違点に気付きませんか？



このように、単元の評価規準は、各単元で取り扱う【事柄・話題】や【言語材料】、当該単元を中心とする言語活動において設定するコミュニケーションを行う【目的等】に即して設定します。

特に、「思考・判断・表現」及び「主体的に学習に取り組む態度」については、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて活動している児童の状況の評価する必要があるため、【目的等】の部分については、当該単元を中心とする言語活動をイメージしながら明確な【目的等】を設定していただきたいと思います。(次号では、実際の授業における評価場面や評価方法について取り上げます。)

なお、参考資料の第2編には「内容のまとめ(五つの領域)ごとの評価規準(例)」が具体的に示されています。評価規準作成の際にはぜひ活用をお願いします。